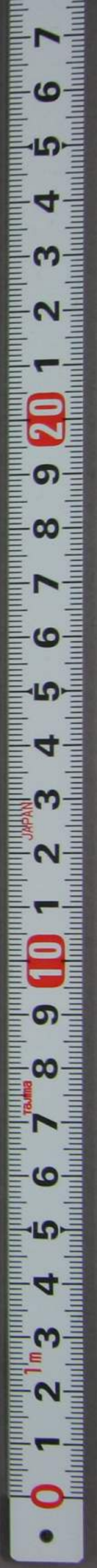


114
A 2825



設鐵道ノ拂下ニ付意見具申
 頃日廟堂ニ於テ官設鐵道拂下ノ議アリト聞ク
 或ハ拂下ノ事既ニ決定セリト傳フル者アリ此
 事タルヤ頗ル重大ノ關係ヲ有シ若シ果シテ實
 行セラル、ナレバ國家將來ノ施政ニ對シテ危
 害ヲ醸シ且經濟ヲ過ラシメ他日之ヲ悔ユルモ
 亦挽回スヘカラサルノ恐レアリ故ニ今爰ニ官
 設鐵道拂下ノ處置極メラ不得策ナル所以ヲ開
 陳シ以テ閣下ノ參考ニ供セントス
 我國鐵道ノ開設後年ヲ經ルコト未タ多カラス

大正十一年四月
 侯爵 齋藤 寄贈



隨テ鐵道ナルモノカ國家ノ政治經濟ニ何等ノ
影響ヲ及ボスヤノ經驗ニ至リ然レモ從來歐米
各國ニ於テ鐵道事業ニ就キ經驗ニタル憲法殊
ニ各國政府カ私設鐵道ニ関シテ施政ヲ過リタ
ル事跡ハ早晚我國ニ於テモ亦實驗スルニ至ル
ヤ知ルヘカラス故ニ我國ニ於テハ歐米各國ニ
於テ經驗シタル鐵道政治ノ失策ヲ鑑ミ豫メ之
ヲ防クノ配慮ヲ為サ、ルヘカラス
故ニ今官設鐵道拂下ノ舉テ各國ノ鐵道歴史ニ
徴シ其將來ニ生スル結果ヲ考察スレハ大要九

ノ如クナルヘシ

第一 今ノ官設鐵道ヲ買受ケタル私立會社
ハ勢力強大ニ過キラ政治上ノ危害物トナ
ル事

第二 日本全國鐵道普及ノ道ヲ阻止スル事
第一 今ノ官設鐵道ヲ買受ケタル私立會社
ハ勢力強大ニ過キラ政治上ノ危害物トナル
事

凡百ノ營利事業中規模ノ宏大ナル收利ノ巨大
ナルハ鐵道事業ノ如キモノナシト云フ歐米各

國ノ鐵道會社ハ日ニ數十萬ノ人員ヲ使用シ年
ニ數千萬ノ資金ヲ出納シ其勢力ハ以テ政府及
國會ノ議論ヲ左右シ其金力ハ以テ一小政府ヲ
成スニ足ル歐米ノ人鐵道會社ヲ稱シテ國內ノ
獨立國ト云ヒ或ハ鐵道王ト言フハ畢竟其勢力
ノ強大ニシテ政府ト雖モ之ヲ如何トモスルコ
ト能ハサルヲ形容シタル語ナリ夫レ斯ノ如ク
鐵道會社ノ勢力強大ナル所以ノモノハ第一ニ
國ノ公用財産ニ屬スル延長數百哩ノ道路ヲ專
用シ地方運輸ノ業ヲ獨占シ他ニ競爭者ナキコ

ト是ナリ之ヲ郵便電信ノ二業ニ比スルニ其業
務ノ宏大ナルハ蓋シ此二業ニ讓ラサルヘシ鐵
道ハ法律上ノ獨占事業ニアラサルモ事實上ノ
獨占權^{モ、ポール}アルモノナリト云フハ歐米學者ノ常ニ
言フ所ナリ又假令此獨占權アルヲ嫌ヒ鐵道ノ
布設ヲ人民ノ自由ニ任シ甲地ト乙地ノ間ニ幾
多ノ線路ヲ布設セシメ自由ニ競爭セシムルニ
モセヨ其結果ハ一者仆レテ他ノ一者其利ヲ專
占スルカ或ハ數者相合シテ一社トナルモノナ
リ是レ鐵道ノ其性質ニ於テ元ト競爭ヲ行フ能

ハサルモノナレハナリ英國ノ如キ某ノ地方ニ
於テ嘗テ五拾若クハ六拾ノ小會社連立セシカ
竟ニ相合シテ一大社トナリ又佛國ニ於テモ嘗
テ數百ノ鐵道會社アリシカ強社ハ弱社ヲ合併
シ現今存在スルモノハ僅ニ六社ニ過キス第二
ニ英佛諸國ニ於テハ國會議員中鐵道會社ト利
害ヲ同フスル者ハ二百名ニ下ラス故ニ議院ノ
多數ハ常ニ會社ノ利益ノミヲ主張シ政府ノ監
督權ハ之ヲ如何トモスルコト能ハス米國ニ於
テ此弊更ニ甚シト云ヘリ新聞紙ノ如キ往々鐵

道會社ノ扶助ヲ受ケ然ラサルモ多ク廣告ヲ托
セラル、等ノ緣故アルヲ以テ曾テ會社ニ對シ
テ非評ヲ下スモノナシ既ニ英國ニ於テ陸軍省
スラ高鐵道會社ヲ相手取リテ訴訟ヲ起スノ不
利益ナルヲ知リ之ヲ憚ルノ事實アリト云フ英
人云ヘルコトアリ曰ク政府鐵道ヲ支配スハキ
カ將々鐵道却テ政府ヲ支配スハキカト洵ニ實
ヲ穿テルノ言ト謂フヘシ其他前ニ述ハタル如
ク鐵道會社ハ數萬ノ役員ヲ支配シ若夫ヲ使役
スルカ為メ政黨者流ノ為メ濫用セラル、ノ例

斯カラズ現ニ獨逸ノ鐵道ニ從事スルモノハ上
下合セテ或指四萬人ニ下ラス即チ國會議員選
舉等ノ事ニ影響スルノ大ナルコト知ルヘシ
鐵道會社ハ社會ノ大權カヲ占ムルコトヲ得ハ
キモノニシテ獨リ政府ノ施政ヲ妨害スルノミ
ナラス亦往々高工業ノ利益ヲ左右スルモノナ
リ歐米各國ニ於テ諸般ノ事業偏ニ鐵道ノ為ニ
制セラル、ノ例斯カラズ高勢ノ如キモ亦其影
響ヲ受ケサルハナシ例之ハ政府ニ於テ関稅ノ
率ヲ増シ以テ外國ノ事業ヲ振作セント欲スル

モ鐵道會社ニ於テ殊更ラニ其運賃ヲ變セハ則
チ政府其目的ヲ達スルコトヲ得ズ是レ豈施政
ヲ妨害スルニアラスヤ斯ノ如ク農工商ヲ問ハ
ズ重大ノ事業ハ概ネ其牽制ヲ受ケサルハナシ
而シテ會社ハ其處置ノ不可ナルヲ知ラサルニ
アラス又務メテ然ルニアラス唯々當時ノ勢ニ
連レテ自然ニ此ニ至ルヲ多シトス英國ニ於テ
荷物運送問屋ノ如キ之ヲ存スルニ於テハ鐵道
ニ不利ナルカ爲メ會社ハ之ヲ排擠シテ竟ニ其
跡ヲ歛メタリ又英國ニ於テ石炭ノ相場米國ニ

於テ小麥及石油ノ相場ハ一ニ鐵道會社ノ左右
スル所タリ
之ヲ要スルニ鐵道事業ハ民業トシテハ廣大ニ
過キ官業タルヘキ性質アルモノナリ即チ郵便
電信ト同シク公共ノ施設物トシテ政府ノ管理
スヘキモノタリ歐米各國ニ於テ官設民設ノ鐵
道並行スルハ當初ヨリ之ヲ得策トシテ行ヒタ
ルニアラヌ畢竟當初鐵道ノ開ケタル際ニ未タ
其經驗アラズ全ク偶然ニ出ラタル成跡ナリト
ス故ニ今日ハ各國政府既ニ民設鐵道ノ百弊ア

ルヲ知リ之ヲ矯正セントノ計畫ヲ為サ、ルハ
ナシ獨逸諸國ニ於テハ數年來頻リニ民設鐵道
ヲ買上ケ全國ノ鐵道ヲ官有ニナサンコトヲ勉
ム英國米國ノ如キモ政府及有識者ハ今、私設
鐵道ヲ官有ニ改ムルノ得策ナルヲ知リ之ヲ實
行セントノ計畫ヲ為シ唯々其實行ノ困難ナル
ニ苦ムト云ヘリ嗚呼殷鑒遠カラズ我國ニ於テ
ハ何ヲ苦ミテ他國ノ失敗ヲ模倣シ歐米政治家
カ矯正策ニ困スルモノヲ殊更テ此地ニ造出ス
ルヤ

今ヤ我國ニ於テ現在ノ官設鐵道ヲ買受ルニハ
少クモ六七千萬圓ノ資本アル最大會社ニアラ
サレハ之ヲ為シ得サルヘシ此ノ如キ大會社ハ
我國ニ於テ未嘗有ノモノニシテ其勢力ノ強大
ナルヘキハ國內ニ於テ比肩スルモノナカルヘ
シ是レ即チ日本政府ノ下ニ更ラニ一政府ヲ建
設スルモノニシテ將來政治上ノ危險物タルヘ
キハ智者ヲ俟タスシテ知ルヘシ尚之ヲ詳言ス
レハ前陳歐采私設鐵道ノ弊ハ我國ニ於テ再
現出ニ政府國會新聞紙輿論皆其會社ノ支配ス

ル所トナリ政署マテ之カ牽制ヲ受ルニ至ルヘ
シ論者或ハ曰ハシ政府ハ嚴重ナル契約ヲ以テ
拂下ツテ充ク其監督權ヲ存スルニ因リ危險
ナルコトナシト然レモ各國ノ例ニ依ルニ契約
ト云ヒ監督權ト云ヒ動モスレハ金力ノ為メニ
左右セラレ易キモノニシテ當初甚ク嚴重ナル
契約モ資金ノ力ハ以テ能ク之ヲ變スルヲ得ヘ
シ終テ最大會社ニ向テハ政府ノ監督權最モ行
ハレ難ク現ニ佛國ノ鐵道監督法ハ極メテ完全
ナリリ云フモ仍其會社ヲシテ一害ヲ除カシム

ルニハ必ス更ニ一利ヲ加與シテ之カ報酬トナ
サ、ルヲ得ス

茅ニ 日本全國鐵道普及、道ヲ阻止スル事
今若シ現在、官設鐵道ヲ拂下ケルトキハ日本
全國ノ鐵道事業、此時ヨリ阻喪シテ進歩普及
ノ道停止スヘシ何ヲ以テ斯ク言フヤ曰ク會社
一個ノ利益ト全國公共ノ利益トハ元ト並行セ
サルモノニシテ今假リニ鐵道ノ官設ヲ止メ之
ヲ悉ク人民ノ布設ニ任スト定メレニ國內樞要
ノ地即チ收利ノ多キ所ニハ鐵道ノ布設ヲ見ル

ヘキモ收利ノ較ニ必キ地ニハ常テ線路ノ連絡
ナカルヘシ併國ニ於テ鐵道ノ連絡全カラサリ
ヲ便ニシテ戰機何トナレハ私立會社ハ其資金ニ
對シテ利益多キ所ヲ撰ミテ之ニ從事シ不利益
ノ所ハ之ヲ問ハサルコト自然ノ通情ナレハナ
リ故ニ利益ノ少キ線路ハ政府自ラ之ヲ經營ス
ルカ或ハ會社ニ保護利益ヲ保證シ又ハ資本ヲ
補給スルノ類ヲ加ヘテ以テ經營セシメサルヘ
カラス此ニ於テ利ハ會社ヲシテ之ヲ占メシメ
不利ハ政府之ヲ受クルニ至ル現ニ歐洲諸國中

此弊ニ因ルモノ少シトセズ之ニ反シテ能ク全
國一般ノ利害ヲ参酌シ帝ニ繁盛ノ通路ニ軌條
ヲ布設スルノミナラス亦未開不毛ノ地ニマテ
之ヲ普及スルハ獨リ政府之ヲ為スヘキノミ而
シテ政府カ公共ノ利益ヲ謀リ能ク鐵道ノ普及
ヲ經營シ得ルハ全ク収利ノ多キ鐵道ト収利ノ
寡キ鐵道トヲ保有シ其經濟ヲ合一ニシ甲地ノ
利益ヲ以テ乙地ノ損失ヲ補充シ得ルカ為メナ
リ然ルモ前ニ述ビタルカ如ク政府ヲシテ獨リ
不利益ノ鐵道ノミヲ經營セシメントシ或ハ會

社ニ保護ヲ加ヘシメントスル考察ハ歐洲ノ強
大國ニ於テモ尙國庫ノ財政ニ於テ之ヲ許サス
況ンヤ我國ノ如キ財政ニ於テ斯ノ如キ餘財何
クニフランヤ
現今ノ官設鐵道ハ延長四百拾九里餘ニ達シ皆
樞要ノ地ヲ連絡シ収利ノ最多キモノニ屬ス現
今總理數ハ東海道ノ新線路ヲ合シテ四百拾九
哩ニ越エ其收益ハ明治二十年ニ於テ總理數二
百四拾五哩ニ對スル純益百六拾九萬圓ニ比例
シテ之ヲ算スルニ本年及來二十三年ニハ少ク

モ或百八拾九萬圓ノ純收入アルヘシ而シテ二
十四年以後ニハ蓋シ年々三百萬圓ノ上ニ出ツ
ヘシ故ニ未ニ十三年後ハ政府ハ嘗テ募集シタ
ル中仙道鐵道公債二千萬圓ノ利子年額百四拾
萬圓及華族銀行ヨリ借入シタル金額一千萬
圓ノ利子年額七拾五萬圓ヲ支拂フヘキモ尚年
年八拾萬圓ノ餘金ヲ生スベシ政府ハ此ヨリ
更ニ進ミテ本管街道ノ如キ北陸道ノ如キ北海
道ノ如キ利益ノ多カラサル線路ノ布設ニ着手
シ以テ甲ノ利益ト乙ノ損失トヲ平均セシムヘ

シ斯ノ如クナルトキハ鐵道全國ニ普及シ全國
ノ經濟上利スル所蓋シ測知スヘカラス然ルモ
今若シ現在ノ官設鐵道ヲ舉ゲテ茂業ニ任スル
トキハ前題ノ如ク國內不利益ノ地ニハ鐵道起
ラズ政府又之ヲ起スノ餘資ナク其結果ハ鐵道
ノ普及ヲ阻止スルニ至ルヘシ
之ヲ要スルニ政府カ鐵道ニ處スルノ政界ハ財
政上ノ損得ヨリモ第一ニ注目スヘキハ社會經
濟上ノ點ト政治上ノ利害ニアリ今我國ニ於テ
ハ財政上其鐵道ノ維持ニ苦ムニアラズ却リテ

大ニ利益アルニテラスヤ而シテ其政治上ノ関
係ハ前ニ陳述シタル如ク立憲政ノ組織未タ鞏
固ナラサル今日ニ於テ大ニ戒慎セサルヘカラ
サル所アリ故ニ官設鐵道拂下ノ一舉ハ斷然停
止セラレシメトテ希望ス

明治廿二年五月

法制局参事官中根重一